

CTCDT Letter

Clinical Trial Center for Developmental Therapeutics

冬
27号
2009

CONTENTS

- | | |
|---------------------------------------|---|
| ① 新春特別座談会「治験拠点医療機関として～新任教授と語る治験への取組～」 | 1 |
| ② EC 承認済み研究一覧 | 6 |
| ③ 「第8回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2008」発表報告 | 7 |
| ④ 第1回欧州統合医療学会にて発表しました | 7 |
| ⑤ 治験推進地域連絡会議に参加して | 7 |
| ⑥ CRC 上級者研修会 In 大阪 受講報告 | 7 |
| ⑦ 第29回日本臨床薬理学会発表報告 | 8 |
| ⑧ 認定資格取得 | 8 |
| ⑨ 新スタッフ紹介 | 8 |
| ⑩ 編集後記 | 8 |



新春特別座談会

治験拠点医療機関として ～ 新任教授と語る治験への取組 ～

苛原センター長(以下、苛原) 明けましておめでとうございます。新春早々このようなお時間をいただいて有り難ございます。本日の対談では、臨床研究を推進するという観点から、特にご専門の領域における治験に対する取組についてお話を伺いたと思います。多くの診療科のなかで、今回は新任の先生方をご紹介させていただき意味も兼ねまして、対談を企画しました。どうぞ宜しくお願いしたいと思います。

最初に香川病院長から、本院における治験実施の基盤整備についてご紹介いただきます。

徳島大学病院は治験拠点病院

香川病院長(以下、香川) 平成11年度に現在の臨床試験管理センターの前身である治験管理センターを開設、平成15年には、本日出席している楊河准教授を始め3名を定員化しまして、業務を拡充しました。さらに平成16年に、徳島県における臨床試験実施体制の充実を目的に、徳島県医師会との連携で「徳島治験ネットワーク」の構築を開始しました。平成19年度からは、厚生労働省の「治験拠点病院活性化事業」で拠点医療機関に採択されています。

また全国に先駆けて平成13年度より臨床試験登録医制度を制定し、治験を担当



(写真前列右より佐田教授、香川病院長、高山教授、後列右より苛原センター長、楊河副センター長)

するにあたっては臨床試験管理センターが定期的に行っている研修セミナーへの出席を義務づけ、治験の質の向上に努めていることも強調しておきたいですね。

治験の円滑な実施体制を整備

苛原 治験拠点病院活性化事業では、拠点医療機関の機能として、実施件数と症例集積率等において地域におけるモデル医療機関となることに加えて、他の医療機関との連携で治験をさらに推進していくことが求められています。その点では、平成18年度の「大規模治験ネットワーク基盤整備事業」(厚生労働科学研究費、日本医師会治験促進センター)に採択さ

れた「徳島治験ネットワーク」で、複数の登録施設による共同治験が現在実施中です。

また、積極的に治験に取り組む医師へのインセンティブという点で、毎年特に治験実施に貢献いただいた各診療科の先生方に、香川病院長から「治験貢献賞」として表彰をいただいております。今年も3月末にこのお部屋(病院長室)で表彰式を行う予定です。

院内においても治験が円滑に進むような体制を整え、治験推進に努めることが重要であると思いますが、楊河先生、診療科の先生方へ治験実施の照会を行うケースも最近増えてきたと思いますが、いかがでしょう？

新春特別座談会 治験拠点医療機関として
～ 新任教授と語る治験への取組～



楊河副センター長(以下、楊河) はい。治験実施の照会につきましては、診療科の先生方への直接打診が勿論多いわけですが、最近、臨床試験管理センターが徳島治験ネットワークの事務局も兼ねていることから、センターへ打診をいただき、センターから各診療科へ照会を行うケースが増えてきました。

予備調査も多いのですが、日頃より高山教授、佐田教授には大変お忙しい中、特に迅速にご回答いただいております。治験依頼者との面談も含めて積極的にご協力いただいて、この機会をお借りして厚く御礼申し上げます。今後もどんどん照会をさせていただきたいと思っております。

北海道から四国に 患者さんとの信頼関係を構築

苛原 それでは高山教授、佐田教授にお話を伺ってきたいと思います。まずは高山教授から宜しいでしょうか。宜しくお願いいたします。



高山教授は一昨年、平成 19 年 12 月に消化器内科の教授にご着任されて、1 年と 1 ヶ月ほど徳島で生活をされていらっしゃいますが、ご出身の北海道に比べると気候も随分違いますし、病院の雰囲気なども異なる点があるかと思いますがいかがでしょうか。

高山教授(以下、高山) 私は、もともと北海道生まれの北海道育ちですので、気候も違いますし、食べる物、言葉、患者さんの気質も、あらゆる面で違うと思います。実際にこの 1 年と少しの間、患者さんと向き合って診療してきますと、言葉は違いますが、少しずつ意思の疎通が取れてきて、よく理解し合っているかなと思っております。最近では、患者さんも思ったことを率直によく言って下さいますので、そういう意味では、場所も全然違う所にきましたけれども、1 年経って良いラポート（親密な信頼関係）がとれるようになってきたかなと思っております。

消化器疾患の内視鏡治療・ 化学療法に重点

苛原 教授は消化器疾患の診断と治療、さらには日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医もお持ちでいられて、全国でも非常に数少ない専門医だと思いますが、先生のご専門について少し詳しくお話いただけますか。

高山 私の専門は大きく 2 つありまして、1 つは消化器内視鏡による消化器癌の診断と治療、特に力を入れているのは、早期癌を内視鏡的に ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）という方法で治すことで、そこに長年力を入れています。もう 1 つは化学療法の専門医として胃癌、



大腸癌、肺癌、食道癌、肝臓癌に対して、できるだけ苦痛のないしっかりした化学療法を提供することです。

消化器治療の エキスパートを育成中

苛原 現在特に意欲的に取り組まれている、今のご専門の領域だと思いますが、スタッフを含めて力を入れていることがあればご紹介いただけますか。

高山 先程の消化器癌や、胃癌、大腸癌などの、難しい、少し大きめの癌の内視鏡治療の症例数を増やしてきています。この 3～4 ヶ月の間に月平均 20 例くらいというペースで、症例数がどんどん増えて、おそらく徳島県内で一番多いと思っています。スタッフも非常に熟成してきていて、これからもどんどんそういったエキスパートを育てたいと思っています。

もう 1 点は、癌の化学療法です。今年は化学療法の専門医を最低 2 人くらいは取得し、科としてみんながこうした治療

をルーチンにできるようにしたいと思っています。

内視鏡・抗癌剤の治験に 取り組みたい

苛原 前任地の札幌医科大学でも治験や臨床研究を活発になさっていたと思いますが、この徳島大学にこられて、臨床試験管理センターがサポートをしているわけですが、前任地と少し違う所とか、こういう面で少し前任地と比べて劣っているのが改善した方がいいかなということがありましたらお願いします。

高山 率直に言いますと、札幌医大ではこんなに治験管理センターに沢山スタッフがいませんでしたし、こんなによく整っていませんでした。非常によく出来ていますので大変感謝していますし、仕事がしやすいと思っています。



苛原 治験全体に対するお考えや、先生のご専門領域で、新しい薬品の動向や興味を持って治験してもいいかなと思うものがあればお伺いしたいと思います。

高山 やはり大学病院は、治験というのはエビデンスを作る重要な役割を担っています。消化器でしたら、先程言いましたような内視鏡と、抗癌剤を中心とした治験に積極的に取り組んでいきたいと思っています。例えば、新しい抗がん剤なら第Ⅰ相試験でも第Ⅱ相試験でも積極的に取り

組んで行きたいと思っています。

苛原 有り難うございました。それでは引き続き佐田教授にお話を伺いたと思います。

佐田教授は去年の4月に循環器内科が出発した初代の教授ということになるわけですが、まずは徳島の印象などをお伺いできたらと思います。

徳島の患者さんは 大学病院を信頼

佐田教授（以下、佐田） 前任が東京だったんですけれども、人が多くて、大学も病院もいっぱい凄さを削っている、そういった中でやっていくのと、徳島では、患者さんが大学を信頼して定着されている形で、やはり勝手が違うなという感じが少しあります。その中で患者さんが非常に医師を信頼して、医師も患者さんに非常によくしている良い関係がありまして、治験や診療する上でも非常にやりやすい感じがあります。

虚血性心疾患が専門

苛原 教授のご専門は循環器一般、特に、動脈硬化、再生医療、薬物療法、生活習慣病と伺っておりますが、ご専門について少しご紹介いただけますか。

佐田 私は循環器の中でも特に虚血性心疾患が専門です。患者さんが今一番多いのが虚血性心疾患ですけれども、冠動脈が狭窄したりすることによって、心筋梗塞が起こります。

ちょうど私が医者になった頃、内科医がカテーテルを使って治療できる風船などがありました。それで、風船だけでなかなかうまくいかなかったり、再狭窄が起こったり、広げようと思ったら潰れる事などがあって、ステントや、ローターブレーターというドリルみたいな動脈硬化の狭窄部分を削るものとか、色々なものが発達しました。そういった新しいものでなるべく内科で治療しますし、発症がどうして起こっているのか、どうすれば予防できるのかといったことや、薬物療法などにも非常に興味があって、メカニズムに関する検討もやっています。

臨床的にも、例えば急に糖尿病の方が心筋梗塞を起こす場合など、何とかして



そういったものを予知できないかとか、こういった所で起きるのかということで、バイオマーカーや血液マーカーやそういったものをCTやMRIを使って外来診療で見つけるという方法を開発していきたいと思っています。それと今はやはり再生医療ですね。心臓がかなり悪化している人の場合でも、そういったものを蘇らせるということで、今すでに注目されていますが、そちらの面でも、基礎的な部分を終えたものを、出来ればこちらで臨床応用して行きたいと思っています。

循環器疾患の 最先端の診断法・治療法の導入

苛原 循環器内科が新しく立ち上がって、先生がこれから教室をお作りになって行かれると思うのですけれども、スタッフを教育していく中で特に今意欲的に取り組まれているような領域などがありますでしょうか。

佐田 どうしても今はかなり進歩が激しく、急ですので、世界で行われている最も新しい診断法、治療法を迅速に導入して、こちらでやっていきたいと思っています。症例数もスタッフもこれからどんどん増えていくと思います。特に急性期の疾患で、頑張れば助けられる人をなんとか助けられるということをやっていききたいですね。

それから、急性期だけをやっている病院は一般病院もあるわけですから、大学



新春特別座談会 治験拠点医療機関として
～ 新任教授と語る治験への取組～



病院としては原因のわからないものを解明するといったこと、そういったものに新しい治療法をトライするという面もあります。若い先生達には循環器内科全部ということで不整脈もエコーも全ての分野で一流の診療技術を習得して行って貰いたいと思います。

「私たちは急患を断りません」

苛原 佐田教授は「私たちは急患を断りません」と書かれている名刺をお持ちで、配られているという風に聞いております。

治験につきましては、先生の教授就任時のご講演などで、相当東京大学でご経験があるように思うのですが、私共の所で非常に足りない点とか、治験について徳島大学病院がこうした方がよいかなという点がありましたら。

佐田 東大の時も臨床試験部というのがあって、看護師さん、薬剤師さんがいて中央でやって行くという形をとっておりましてけれど、どうしてもやっぱり大きくなってくるので、ここほど friendly というか、いわゆる face to face で色々ときめ細かくやってもらえたりということは……。割と大きな中で機械的に動いていくだけだったので、徳島では非常にやりやすくて、

何かちょっとありますとすぐ来て下さって、そういった形で動きやすいと思います。

循環器疾患の治験を積極的に実施したい

苛原 最後に、臨床試験全般に対して、循環器系でしたら場合によったら、医薬品だけでなく技術や器械もあると思うのですが、特に興味を持って、今後こういうものがあればご自分でもお引き受けになってもいいかなと思うようなことがありましたら、お伺いしておきたいと思います。

佐田 いわゆる New device と言っているような治療法があります。ステント等にしても薬物、放射線、新しいものが入り入れられていますけれども、そういったものをまず治験でいろいろな施設でやるという形で、そこに入っていきたいと思っています。後は不整脈の治療法も、今はカテーテルアブレーション（心筋焼灼術）の適応が広がっています。最新の器械を導入して、診療レベルの向上を図りたいと思っています。

難治性の治療で肺高血圧症とか、拡張型心筋症で心臓移植しか手がないが、ドナーの絶対的な不足で治療法がない方、下肢の閉塞性動脈硬化症で末梢動脈が閉

塞し、いわゆる切断しかないような方、そういった方に対して可能性のあるお薬というのが今少しずつ開発されています。是非ともそれを試したいという方は沢山いらっしゃるの、治験をどんどん積極的に実施したいと思います。

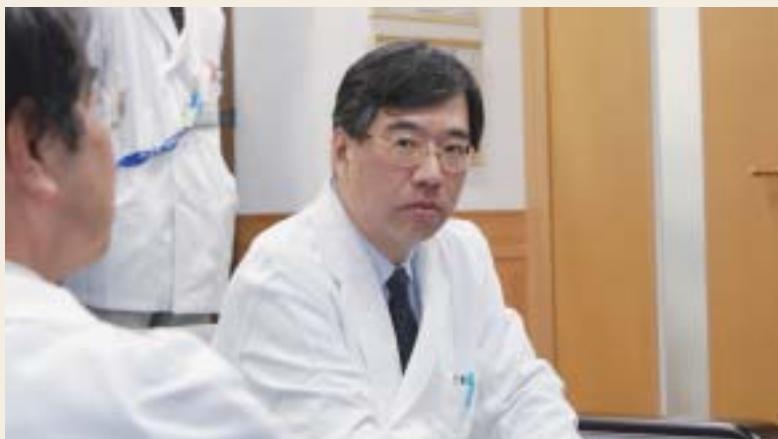
臨床試験管理センターの支援体制



苛原 お二人ともどうも有り難うございました。非常に具体的なご意見いただきまして、我々としても両教授に非常に期待するところが大きいので、ご支援をさせていただきたいと思いますし、ご支援をいただきたいと思います。

最後に、楊河先生から現在の臨床試験管理センターでの支援体制についてお話をお願いします。

楊河 現在、臨床試験管理センターでは8名のCRCが支援業務を行っています。うち5人の看護師と1名の薬剤師がおもに先生方の治験をサポートしています。CRCとしての専門性、各領域に対応した支援業務の両面から質向上に努めており、3名が日本臨床薬理学会認定CRCを既に取得して、院内各部署のご理解、診療科同士の連携をいただきながら、業務を行っています。総合病院ですから治験の領域も多岐に渡りますので、各領域に対応



した専門性の取得に関しては難しい面もあるのですが、先生方にはぜひ支援業務に対するご要望などを今後ともお聞かせ願えればと思います。

また、治験とは少し離れますが、食品の臨床試験の実施体制構築も重要な課題で、残り2名のCRC、これは管理栄養士と薬剤師ですけれども、この方面でのスキル獲得に力を入れております。既に循環器内科では食品臨床試験を実施頂いており、今後ともよろしくお願いいたします。

それと、裏方的になりますのであまり話には上りませんが、事務スタッフもスキルアップに努め、契約までの時間短縮、広報活動など、一丸となって治験推進に取り組んでいるところです。

徳島大学病院における センターの位置づけ

苛原 病院長の方から、病院の中での臨床試験管理センターの位置づけについて、最後にお願いたします。

香川 現在よりハード面・ソフト面ともに拡充、充実すべきだと思います。ちょうど私が病院長になった時くらいに曽根先生（呼吸器・膠原病内科学分野教授、初代臨床試験管理センター長）がセンター長になられて、これくらいいいだろうといったのが、今では狭くなって、業務に支障がでるようになっていきます。

いずれ病院再開発の中で、臨床試験管理センターの設置に関してはスペース面と同時に各診療科との連携がスムーズに行えるような場所を考える必要があります。

先程、楊河先生がおっしゃったCRCについても、レベルの高い人と、低いとい

うのではないけれど初心者や普通レベルの人からの段階的なスキルアップができるように屋根瓦方式みたいなことをやって充実・発展を図るとするのが一番いいんじゃないでしょうか。

結論的には、臨床試験管理センターは大学病院にとって非常に重要な役割を担っているという判断です。いいかえれば、臨床試験管理センターの設置・充実が大学病院の使命であると思っています。

苛原 どうも有り難うございました。今後とも治験推進に努めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。本日は有り難うございました。



ご略歴



たかやま てつじ
高山 哲治

札幌医科大学医学部卒業
専門分野は消化器疾患の診断と治療、癌の化学療法
札幌医科大学内科学第四講座 准教授を経て
2007年より徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
臓器病態治療医学 教授に就任
(現在、同大学院消化器内科学 教授)
趣味は映画鑑賞、スキー、野球



さいた まさたか
佐田 政隆

東京大学医学部卒業
専門分野は循環器内科学（心血管内内分泌学、高血圧、動脈硬化）
東京大学大学院先端臨床医学開発講座客員准教授を経て
2008年より徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
循環器内科学分野 教授に就任
趣味は柔道（四段）、ランニング



徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会

EC 承認済み研究一覧

委員会開催日 2008年10月27日

申請者所属	課 題 名
食道・乳腺甲状腺外科	進行性乳がん患者を対象とした TS-1+Docetaxel 併用療法の有効性に関連する生物学的因子を探索する臨床研究（薬剤感受性生物学的因子探索研究）
消化器内科	E7107 の胃癌に対する抗腫瘍効果の検討
口腔顎顔面外科学	口腔乾燥症に対するピロカルピン塩酸塩（サラジェン錠 R）を用いた口腔リンス療法の有効性の検討
呼吸器・膠原病内科	肺癌患者における好中球減少性発熱エピソードと肺炎合併患者の臨床的背景と予後の検討
眼科	眼炎症性疾患患者涙液及び血清中のシステインプロテアーゼインヒビターの検出について
女性の健康支援学	臨地実習における看護学生の抱えているストレスの実態－ストレス緩和支援プログラム立案に向けて－
女性の健康支援学	不妊治療を受けているカップルが抱えている身体心理社会的側面の問題
循環器内科	高血圧患者におけるシルニジピン（ネビリン）の酸化ストレスに対する作用
泌尿器科	未治療中間リスク群限局性前立腺癌に対する NHT+ ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法 + AHT 併用療法と NHT+ ヨウ素 125 密封小線源挿入併用療法のランダム化比較臨床試験
脳神経外科	悪性神経腫瘍に対するテモゾロミドとインターフェロン・ベータ併用化学療法
呼吸器・膠原病内科	特発性肺線維症急性増悪、薬剤性肺障害の遺伝学的比較研究
消化器内科	胃癌における生検組織を用いた遺伝子異常の解析
消化器内科	クローン病腸管切除術後の栄養療法の有用性の検討
泌尿器科	泌尿器癌における浸潤転移に関与する分子の網羅的解析
周産母子センター	胎児心超音波検査

委員会開催日 2008年11月17日

申請者所属	課 題 名
先端医療開発研究プロジェクト	若年者子宮頸癌の放射線治療成績に関する全国調査
看護学	統合ケアにおける地域在宅高齢者と子どもとのサポート授受とそれが及ぼす影響
口腔保健福祉学	口腔保健学科学生の顎関節症状と心理特性などに関する前向きコホート研究
病理解析学	筋ジストロフィー剖検心の病理学的検討：心筋線維走行に沿った切り出し法による
生体情報内科学	DHEAS の動脈硬化抑制作用に関する臨床研究
周産母子センター	Stage II 大腸癌における分子生物・病理学的マーカーによる再発 high-risk 群とフッ化ピリミジン感受性群の選択に関する研究
周産母子センター	Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究（第Ⅲ相臨床試験）
消化器・移植外科	進行・再発胃癌に対する TS-1 単独療法 / TS-1+ レンチナン併用療法による第Ⅲ相試験
療養回復ケア看護学	脳卒中患者の生活上の困難点に関する思いの調査
呼吸器・膠原病内科	肺がん化学療法施行症例における PRO を評価する臨床試験
整形外科	日本人における腰椎分離症の発生頻度
泌尿器科学	前立腺癌治療での Goserelin（ZoladexR）の腹部投与時における疼痛軽減法の検討
消化器・移植外科	切除不能結腸直腸癌における二次治療以降の FOLFIRI+Bevacizumab および FOLFOX+Bevacizumab 療法の有効性、安全性の実態を調査する多施設共同試験

委員会開催日 2008年12月22日

申請者所属	課 題 名
消化器・移植外科	肝切除および膵頭十二指腸切除における合成吸収系使用の手術部位感染抑制効果に関する多施設共同並行群間無作為化試験
麻酔科	男性喫煙者における気管挿管時の心血管反応、bispectral index 値及び心拍出量に及ぼすレミフェンタニルの影響
臨床薬剤学	電子化された患者情報を、複数の医療機関から収集、集積して解析する方法に関する研究－乳がんに対する AC（EC,FEC）療法の使用成績調査をモデルとして－
食道・乳腺甲状腺外科	閉経後乳がんの術後内分泌療法に伴う関節症状についてのアンケート調査の実施
消化器・移植外科	大腸癌術後の消化管機能異常に対する大建中湯（DKT:TJ-100）の臨床的効果（プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験）
消化器・移植外科	pTNM Stage II 直腸癌症例に対する手術単独療法及び UFT/PSK 療法のランダム化第Ⅲ相比較臨床試験
病理解析学	筋ジストロフィー剖検登録票による集計と解析
循環器内科	経皮的冠動脈形成術施行患者の冠動脈血管内プラーク組成に対するアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の効果に関する研究
看護学	IT システムを導入した農業に従事する高齢者の保健行動
消化器内科	潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法（LCAP）の適応・効果予測に関する多施設共同プロスペクティブ研究
循環器内科	超音波診断装置の画質及び新機能の有用性に関する評価（（株）日立メディコの委託研究契）
統合生理学	健康成人におけるリゾレシチンの行動・睡眠に対する効果の検討
消化器・移植外科	腹腔鏡下調節式胃バンド（laparoscopic adjustable gastric banding）を使用した肥満治療

「第8回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議2008」発表報告

CRC 佐藤 千穂

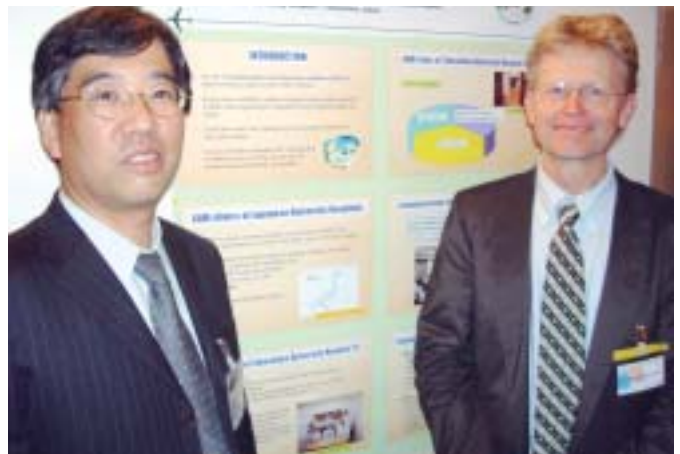


2008年10月11～12日、in 金沢「CRC と臨床試験のあり方を考える会議」にて『徳島大学病院における食品臨床試験への取り組みと管理栄養士による CRC 業務』についてポスター発表をさせていただきました。H15年より積極的に食品臨床試験に取り組んでいる当院の現状と食品臨床試験に特徴的な管理栄養士 CRC としての係わりを報告しました。今年度の会議では、食品の臨床試験に関する演題のポスター発表が当院以外にもいくつかあり、双方施設での実施状況など情報交換することができ、私にとっても大変有意義な会議でありました。

第1回欧州統合医療学会にて発表しました

副センター長 楊河 宏章

徳島大学病院で補完代替療法室・おくすり相談室が開設されて1年を経過したのを契機に、これまでの相談業務の内容をまとめ、平成20年11月7日から9日まで、ドイツ、ベルリンで開催された 1st European Congress for Integrative Medicine にて、ポスター発表を行いました。統合医療が進んでいる欧州においても、種々の補完代替療法に関する相談に総合的に対応する試みはあまり一般的ではない様子で、病院内における位置づけ、料金など実務的な内容（無料ですが！）も含めて、いろいろと質問も頂いて貴重な機会になりました。今後も業務の充実へ向けて努力したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



▲ポスターセッション座長の Prof. Weidenhammer とともに

（抄 録：Yanagawa, H., Terao, J., Takeda, E., Takaishi, Y., Kashiwada, Y., Kawazoe, K., Fushitani, S., Tsuchiya, K., Yamauchi, A., Sato, C., Irahara, M., Kagawa, S. Present status of clinic for complementary and alternative medicine at university hospitals in Japan; a case of Tokushima University Hospital. Eur J Integ Med 1(Supple 1):S66, 2008)

治験推進地域連絡会議に参加して

井本 淳一郎

平成20年11月8日に、日本医師会館・大講堂で開催された「治験推進地域連絡会議」に参加してきました。文科省、厚労省、企業、保険会社、医療現場、医薬品医療機器総合機構から、治験に関する問題点や今後の姿への提言がなされました。山口大学神谷先生、千葉大学花岡先生他のアグレッシブな発表に触れ、大きな刺激を受け、徳島治験ネットワーク機構事務局のあるべき姿について改めて考える時間となりました。牛歩であっても、一歩ずつ前進したいものだと思います。

CRC 上級者研修会 In 大阪 受講報告

CRC 宮本 登志子

2008年11月13日～14日に、2回目の参加となる CRC 上級者研修会に参加してきました。国際共同治験というグローバル化の中で、日常業務に押し流される事に何らかの答えを得るべく、CRC としてスキルアップを目的に参加を希望しました。講義と「臨床研究と CRC」のテーマでのグループディスカッションに参加しました。問題点に悩みながら活発に活動している他施設の CRC と話し合い、認定 CRC としての役割とやりがいを実感した有意義な研修会でした。

第29回日本臨床薬理学会発表報告

CRC 宮本登志子

今回は、CRC 部門講演発表で「CRC 業務からみた国際共同治験推進のための取り組み」について、国際共同治験の煩雑な業務をCRC業務の役割分担という視点で検討し、結果的にCRC研修のシステムとして活用している現状を報告して来ました。人事異動や新たな雇用によるCRC教育の重要性和グローバル化による業務の煩雑化の有効な一つの対策として、今後もCRC研修システムの意義を検証して行きたいと思っています。



認定CRC資格取得



高井 繁美

第5回日本臨床薬理学会認定CRC試験(2008年11月1~2日実施)を受験し、無事合格することができました。センターに配属された時から認定取得を目標にしていたのですが、これからもこの資格を汚さぬよう日々精進していきたいと思っています。

新 スタッフ紹介



昨年11月から臨床試験管理センターにデータマネージャーとして勤務させていただくことになりました片島るみです。臨床試験に関する業務は始めてですので、まだまだ勉強しなければならないことばかりですが、皆さまよろしく願いいたします。

片島 るみ

編集後記

- 病院長を交えた新春座談会と言う、センターレター初の試みへの参加、なかなか楽しく勉強になりました。ご協力いただいた皆さまありがとうございました。(うら)
- 新春特大号はいかがでしたでしょうか。達成感で一杯です。これでやっと旅行に出かけられます。今年も一ヶ月一旅を目標に、まずは熊本・天草から！(すず)
- 新春特大号～！全頁カラー！わっほい！2009年は小さな幸せにいちいち反応していこうと思います。今年もCTCDTレターをよろしくお願いいたします。(しも)
- 今回の企画に参加できたこと嬉しく思います。素晴らしい内容に感化されたのか、頑張ろうという気持ちが湧いてきます。ですから、それがし旅に出ます！(木宿)

CTCDT Letter 第27号 January. 31. 2009

編集・発行 徳島大学病院臨床試験管理センター
〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50-1

TEL/FAX : 088-633-9294/088-633-9295 Mail : awachiken@clin.med.tokushima-u.ac.jp
臨床試験管理センターホームページ : <http://plaza.umin.ac.jp/~chiken/>
徳島治験ネットワークホームページ : <http://plaza.umin.ac.jp/~tnct/>